

大鹿スケッチ

— 第42号 —
2014年 04月
〈 発信者 〉
前志満 くみ
〈 提供 〉
旅舎 右馬允

朝晩は冷え込むものの日中の光は益々強さを増しています。光や風は土の香りや雲の流れ、山の芽吹きを進行度合いを伝えてくれます。時折、夏をイメージさせる情報も織り交ぜながら彼らは「トキはヨウシヤなくススんでいくんだよー。ガンバレ」といつてくれています。大鹿村から街に向かうダム沿いの道、通称小洪(こしぶ)線では日に日に色彩が増してゆきます。マンサク、ダンコウバイ、キブシの黄色、フサザクラのワインレッド、そして山ツツジのパープルピンク、ネコヤナギのシルバーグレー、柳の蛍光グリーン。山の色が蘇っていきます。春の陽を浴びて、すべてのものが柔らかく明るく、そして何より美しい。厳しい冬を過ごしてきたからこそより感慨深く、そして氷河期を経験してきたDNAが感じているかも知れない特別な季節です。大鹿村の桜はこれからが見ごろです。

右馬允の新作と定番

■鹿肉のユッケ風

今季初お目見え。冷静の鹿肉としては新し感じ。右馬允では長らく生ハムが鹿肉料理ではトップを走っていましたが、かなりいい仕上がります。オニグルミとそばの実を和えて



■山菜のてんぷら

調理人に聞くと料理の中で一番面白いという「てんぷら」かなり奥がふかいようです。最近の流行りは外はサクッと中は山菜の香りが残るようにしっとり感ができようようにあげるのがスタイルです。今日はスギナ、ツクシ、ユキノシタ、フキノトウなど

匂いと、高さ、速さのこと

最近、山友達とはなして「匂いの種類によって伝わりやすい高さを速度があるよね」という話になった。遠くのモノの気配を感じやすいのは鶏の走り方と犬や猫が走っている高さスピード。近くのものを感じたいときはゆったりと歩くと、ゆったりと歩いても大地からどのくらいの高さで歩くかで伝わってくる匂いが違う。友人が話してくれたのは散歩を主人と愛犬とでした時の話。彼らは河るとやや遅め、花の色は川敷の桂の木の前つもより薄紅色が濃く見え、通過した時にそれを感じました。寒いと色を凝縮させた匂いの感知が事なので、それともそれは新緑の時もかすでしょうか？紙谷さんの家には香る、爽やかな甘さが特徴だ。どうやらその匂いは友人に早苗様達が育っているにしか感じ取れなから。朝、陽が射してくると木々の桂に対しては身上げて風通しを良くし、水を長150センチからあげます。畑では彼岸に植160センチの人がえたジャガイモの芽が青々感じる匂いの世界かとし、インゲンの芽が土を盛り上げています。

大鹿 HeatBeat

～大鹿の人々～ 第40回

紙谷 正 さん (87)

季節ごとの風景と共に大鹿人の生活をご紹介し、また日々の中に「動く」をお届けします。



「オオシカ谷の自然のカタチコレクション」延長のお知らせ
大鹿の百年先を育む会では、今後朝四時～五時にかけてが一番賑やかな環境の変化を追うために二〇一二年より村内の植生調査を実施していただきます。植生専門家に依頼し、秋にかけて深山幽谷に分け入り目には降っていき、また雨のおかげでより山の色豊かな植物があるか確認していただきます。お陰さまでこの度、二年度目を合います。お陰さまでこの度、二年度目を合います。お陰さまでこの度、二年度目を合います。

今年度の桜のピークは18日でした。最近の年と比べ薄紅色が濃く見え、通過した時にそれを感じました。寒いと色を凝縮させた匂いの感知が事なので、それともそれは新緑の時もかすでしょうか？紙谷さんの家には香る、爽やかな甘さが特徴だ。どうやらその匂いは友人に早苗様達が育っているにしか感じ取れなから。朝、陽が射してくると木々の桂に対しては身上げて風通しを良くし、水を長150センチからあげます。畑では彼岸に植160センチの人がえたジャガイモの芽が青々感じる匂いの世界かとし、インゲンの芽が土を盛り上げています。

オオシカ谷も春になりお子様連れで観光案内所より延長の申し出があり、五月二十日まで展示させていただきます。オオシカ谷も春になりお子様連れで観光案内所より延長の申し出があり、五月二十日まで展示させていただきます。

折にはぜひお立ち寄り下さい。川コースを設定したにもかかわらず、その道のりはやはり過酷を極めるのでした。崩落が拡張していき、丸太を渡るといって、おなじみオオシカ谷の洗礼を受けました。ですが、春先に足裏感覚を覚めさせ、体幹バランスチェックにはちよいとよい山行きだったのでは？！

